第3種郵便物認可

お米を食べてエコしようよ

阪急西宮ガーデンズ

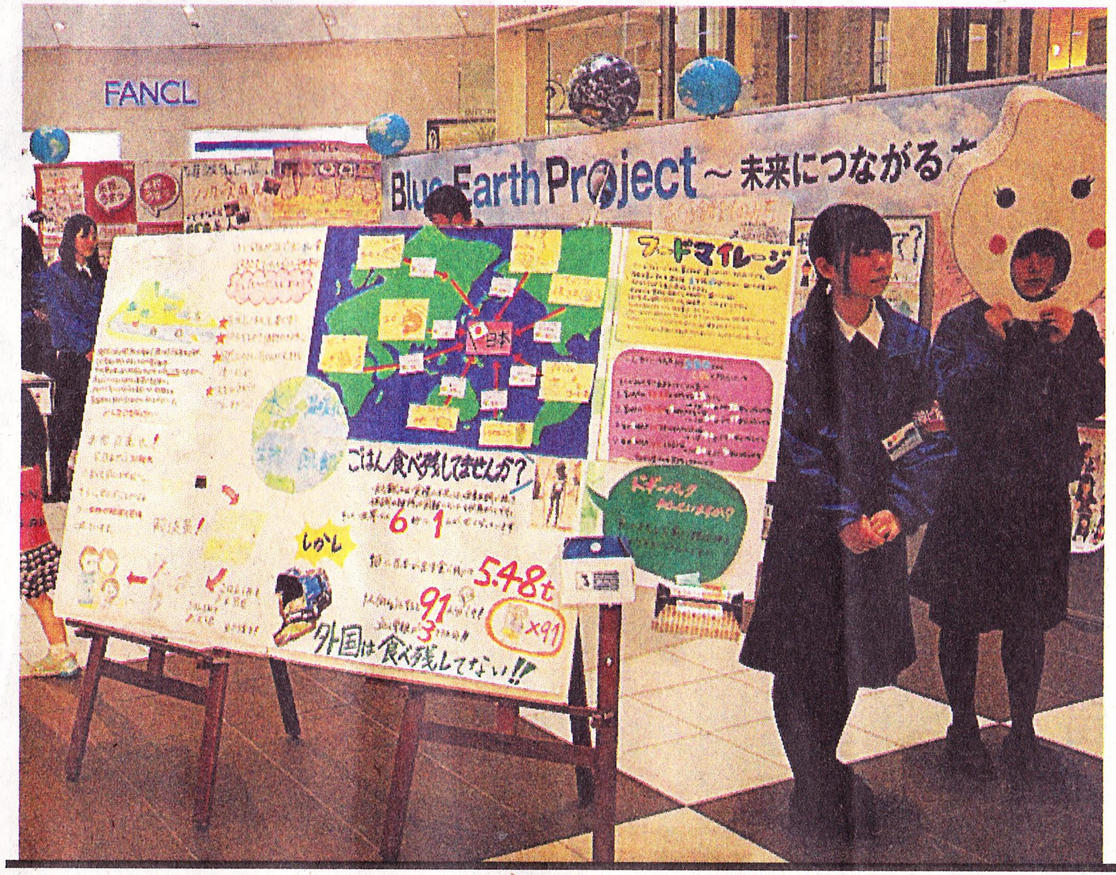
松蔭高生が手作り展示

「お米を食べて世界を救おう」と訴える催しが27日、西宮市高松町の阪急西宮ガーデンズであった。私立松蔭高校（神戸市灘区）の女子高生約50人が企画。生徒らの呼びかけに応じた施設内の飲食店15店では、米を使った特別メニューが出された。

同校は2000年から環境問題を啓発する課外活動「ブルー・アース・プロジェクト」を展開。今年度は「ライス・アクション・キャンペーン」と名づけた運動に取り組んでいる。お米は国内自給率が高く、もっと食べることで、海外から食物を輸入した場合よりも二酸化炭素の排出量を減らせるし、トンボやカモなど多くの生物のすみかである水田を守ることができると訴えてきた。

生徒らは手作りの展示ブースを設けて地球温暖化や世界の飢餓について紹介。野外ステージでは環境問題に関するクイズ大会や演劇も催した。

環境問題を訴える展示ブース。女子高校生が手作りしたパネルが並んだ＝西宮市高松町



県内で作られた減農薬の「コウノトリ米」の試食コーナーもあった。

学外でのキャンペーンは大阪・梅田や神戸に続いて3回目。プロジェクト代表で同校3年の北川真帆さん（18）は「お米を食べるだけでも地球環境に貢献できると伝えたかった。回を追うごとに伝え方がうまくなり、来場者の共感をより得られるようになった気がする。環境と食について学んだことを後輩にも伝えていきたい」と話した。